

大阪湾漁場環境速報

平成22年 2月13日発行
兵庫のり研究所

神戸市沖～湾奥部でスケルトネマを優占種とした小型珪藻が大量発生し赤潮を形成しています。降雨による河川からの出水等の影響もあり、窒素は全域で3 $\mu\text{g-at/L}$ 以上の値を示していましたが、今後も珪藻の増殖（スケルトネマ）、栄養塩動向に注意が必要です。

(水温) 表層は湾内8～9℃台で、平均8.9℃。-10m層は平均9.0℃。

(塩分) 表層平均31.55psu(2月上旬 平年 31.84)。-10m層平均32.32psu(平年 32.37)。

(栄養塩、他) 表層の窒素濃度は平均7.8 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン濃度は平均0.33 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年(8.9)よりやや低く、リンはほぼ平年(0.35)並の値を示している。-10m層(平均)は、窒素5.8 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.44 $\mu\text{g-at/L}$ 。表層塩分が低い海域(神戸市沖～湾奥部)を中心にスケルトネマ(優占種)やキートセロスなどの小型珪藻が大量発生し赤潮を形成しており、特に神戸港周辺で発生量が多かった。珪藻の発生量が多い海域では、リン濃度が低い値を示している。一方、紀伊水道より流入した海水の影響を受けていたと考えられる東浦沖～湾南部(水温9℃以上)では、珪藻は少ない状況。ユーカンピアは湾全域

上段(今回値)	平成22年 2月12日調査
中段(昨年値)	平成21年 2月 5日調査
下段(平年値)	

調査地点	水温(℃)	塩分(psu)	三態窒素($\mu\text{g-at/L}$)	燐酸($\mu\text{g-at/L}$)
04	9.5	32.52	5.7	0.54
	10.7	32.89	5.8	0.54
	10.5	32.80	6.7	0.46
05	8.7	32.31	4.2	0.37
	9.8	31.79	6.3	0.51
	9.4	32.06	6.8	0.38
06	8.4	30.59	9.6	0.10
	9.7	32.37	9.0	0.55
	9.1	32.06	8.4	0.42
07	9.0	32.34	5.2	0.50
	9.9	32.40	5.2	0.40
	9.3	32.13	6.0	0.34
08	9.1	32.41	4.9	0.48
	10.7	32.83	5.2	0.51
	10.3	32.51	6.0	0.40
09	9.8	32.63	5.9	0.54
	11.1	33.00	5.8	0.55
	10.1	32.53	5.9	0.42
010	8.7	32.10	3.6	0.25
	9.8	31.88	8.7	0.48
	9.0	31.95	5.7	0.24
012	8.7	31.07	13.5	0.45
	9.4	31.09	15.2	0.58
	8.8	31.46	9.6	0.24
013D	8.6	30.05	16.1	0.29
	9.4	30.91	19.8	0.71
	8.4	30.84	17.9	0.31
016	8.7	29.41	13.5	0.10
	9.0	28.33	30.7	1.01
	8.4	30.00	19.7	0.33
017D	8.7	30.28	13.6	0.14
	9.6	29.88	28.1	0.89
	8.6	29.80	39.0	0.63
018	8.7	30.19	13.9	0.13
	8.9	26.80	55.5	1.79
	8.4	27.49	54.1	1.24
S1	8.5	30.41	10.0	0.11
	9.0	31.05	13.4	0.54
	8.6	31.45	11.2	0.32
S2	8.6	30.54	9.5	0.11
	8.9	29.64	24.8	0.83
	8.4	30.74	14.7	0.28
S3	8.6	31.12	10.1	0.24
	9.5	30.99	13.8	0.50
	9.2	31.57	9.4	0.35
S4	9.9	32.64	5.9	0.55
	10.1	32.64	4.3	0.42
	10.1	32.61	5.9	0.40



